

# 30周年記念講演を開催

## 形状記憶合金協、祝賀会も

形状記憶合金協会（ASMA）は20日、創立30周年記念講演会と祝賀会をKKRホテル熱海（静岡県熱海市）で開催した。会員企業や大学など研究機関の関係者、来賓など36人が出席した。あいさつ



NASAから参加したベナファン氏

に立った土谷浩一会長（物質・材料研究機構若手国際研究センター長）は形状記憶合金の用途拡大の必要性に言及。さらに海外の素材産業の動きに触れ、「素材の重要性が非常に高まっている。これは日本企業にとってチャンス。メード・イン・ジャパンの再来を実現したい」と話した。

来賓あいさつでは日本機械学会の加藤博之氏（北海道大学准教授）らが祝辞を贈った。加藤氏は「機械工学にと

って材料は非常に重要。今後も皆さんのご協力をお願いしたい」と述べ、材料分野に期待を示した。

講演会では米航空宇宙局（NASA）グレン研究所リサーチエンジニアのオスマン・ベナファン氏が講演。ベナファン氏は「持続可能な航空・宇宙探査の未来における形状記憶合金の役割」をテーマに、NASAの過酷環境に耐え得る合金開発を講じた。最も重視する要素を聞かれる

と、「火星に行かなくてはならない。最も重要なのは性能だ」と回答した。

続いて古河テクノマテリアルの垣生哲史・特殊金属事業部技術開発部長が講演。医療分野では海外と比べ出遅れたものの、「10年かけて花開いた」と振り返った。今後需要拡大が見込まれるアクチュエーター用途については、「トップメーカーにいかに向かい付くかが課題」と話した。

東北大学大学院工学

研究科の大森俊洋教授は、形状記憶合金のメッキであるニッケル・チタン以外の研究内容を披露。実用化にこぎ



出席者による集合写真（前列左から6人目が土谷会長）

着けた銅・アルミーマンガンによる簡易な巻き爪の矯正器具の開発などを語った。

最後に産業技術総合研究所の葭仲潔・健康医学研究部門医療機

器研究グループ長が中央省庁出向時の経験を基に、日本における未来のヘルスケア産業といたった内容を講演。形状記憶合金の活用に関

中での先端医療の普及などを語った。

講演会後には祝賀パーティーが行われ、石田清仁・東北大学名誉教授が乾杯の音頭を取った。

れつつ、高齢化が進む